

社会資本総合整備計画  
日和佐地区都市再生整備計画  
(第4回変更)

平成29年12月

徳島県美波町

社会資本総合整備計画

平成29年12月22日

計画の名称	日和佐地区都市再生整備計画										重点配分対象の該当						
計画の期間	平成26年度～平成30年度(5年間)					交付対象		美波町・徳島県									
計画の目標	<p>・美波町医療保健センター及び周辺施設を核とした3つの拠点整備により、住みなれた豊かな自然環境のもと自立を目指し、一人ひとりが輝いて生きるまちの実現のため、世代間交流や地域間交流を通じた安全・安心な環境づくりによる人から繋がるまちづくりを目指します。</p>																
計画の成果目標(定量的指標)	<p>・保健・医療・福祉の地域包括ケア体制構築による相談体制の充実により、美波町医療保健センターの利用者数を0人(H24)から12,000人(H30)を目指す。          ・生きがい交流空間でのスポーツ、ウォーキング等の健康づくりを目的とした利用団体の拡大により利用者数を560人(H24)から1,680人(H30)3.0倍を目指す。          ・生きがい交流空間や多目的ホールを防災啓発活動等の各種イベント・健康増進活動に活用することにより地域の避難訓練参加者を250人(H24)から375人(H30)1.5倍増を目指す。</p>																
定量的指標の定義及び算定式											定量的指標の現況値及び目標値		備考				
											当初現況値 (H26当初)	中間目標値 (H28末)		最終目標値 (H30末)			
	美波町医療保健センターの年間延べ利用者数を調査する。 (美波町医療保健センターの年間利用者数) = (診療所) + (保健センター) + (多目的ホール)の年間利用者数)										0人	4,000人		12,000人			
	生きがい交流空間の年間延べ利用者数を調査する。 (生きがい交流空間の年間利用者数の増加) = (評価時点の年間利用者数) / (H25当初の年間利用者数)										560人	1,000人 (1.8倍)		1,680人 (3.0倍)			
	地域の避難訓練参加者の年間延べ人数を調査する。 (地域の避難訓練参加者の年間延べ人数の増加) = (評価時点の参加者数×実施回数) / (H25当初の年間参加者数)										250人	300人 (1.2倍)	375人 (1.5倍)				
全体事業費	合計 (A+B+C+D)	1,957百万円	A	1,820百万円	B	0百万円	C	0百万円	D	137百万円	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C+D)	0.0%					
交付対象事業																	
A 基幹事業																	
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用便益比	個別施設計画 策定状況	備考
									H26	H27	H28	H29	H30				
1-A-1	都市再生	一般	美波町	直接	美波町	日和佐地区都市再生整備計画事業	道路、下水道、地域生活基盤施設、高次都市施設、高質空間形成施設、公営住宅、地域創造支援事業 816ha	美波町						1,820.0	—	—	
合計												1,820.0					
B 関連社会資本整備事業(該当なし)																	
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用便益比	個別施設計画 策定状況	備考
									H26	H27	H28	H29	H30				
合計												0					
C 効果促進事業																	
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名	事業内容	市町村名 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	備考		
									H26	H27	H28	H29	H30				
合計																	
番号	一体的に実施することにより期待される効果											備考					
D 社会資本整備円滑化地籍整備事業																	
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (面積等)	市町村名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	備考		
									H26	H27	H28	H29	H30				
1-D-1	地籍整備	一般	徳島県	間接	美波町	地籍調査(奥河内1)	面積 0.28 km <sup>2</sup>	美波町						12			
1-D-2	地籍整備	一般	徳島県	間接	美波町	地籍調査(奥河内2)	面積 0.49 km <sup>2</sup>	美波町						35			
1-D-3	地籍整備	一般	徳島県	間接	美波町	地籍調査(恵比須浜・田井1)	面積 0.06 km <sup>2</sup>	美波町						7			
1-D-4	地籍整備	一般	徳島県	間接	美波町	地籍調査(恵比須浜・田井2)	面積 3.22 km <sup>2</sup>	美波町						68			
1-D-5	地籍整備	一般	徳島県	間接	美波町	地籍調査(奥河内3)	面積 0.61 km <sup>2</sup>	美波町						15			
合計												137					
番号	一体的に実施することにより期待される効果											備考					
1-D-1	基幹事業の日和佐地区都市再生整備計画事業(1-A-1)に先行して、土地の権利関係を明確にすることにより、事業の円滑な実施を図る。																
1-D-2	基幹事業の日和佐地区都市再生整備計画事業(1-A-1)に先行して、土地の権利関係を明確にすることにより、事業の円滑な実施を図る。																
1-D-3	基幹事業の日和佐地区都市再生整備計画事業(1-A-1)に先行して、土地の権利関係を明確にすることにより、事業の円滑な実施を図る。																
1-D-4	基幹事業の日和佐地区都市再生整備計画事業(1-A-1)に先行して、土地の権利関係を明確にすることにより、事業の円滑な実施を図る。																
1-D-5	基幹事業の日和佐地区都市再生整備計画事業(1-A-1)に先行して、土地の権利関係を明確にすることにより、事業の円滑な実施を図る。																

交付金の執行状況

(単位:百万円)

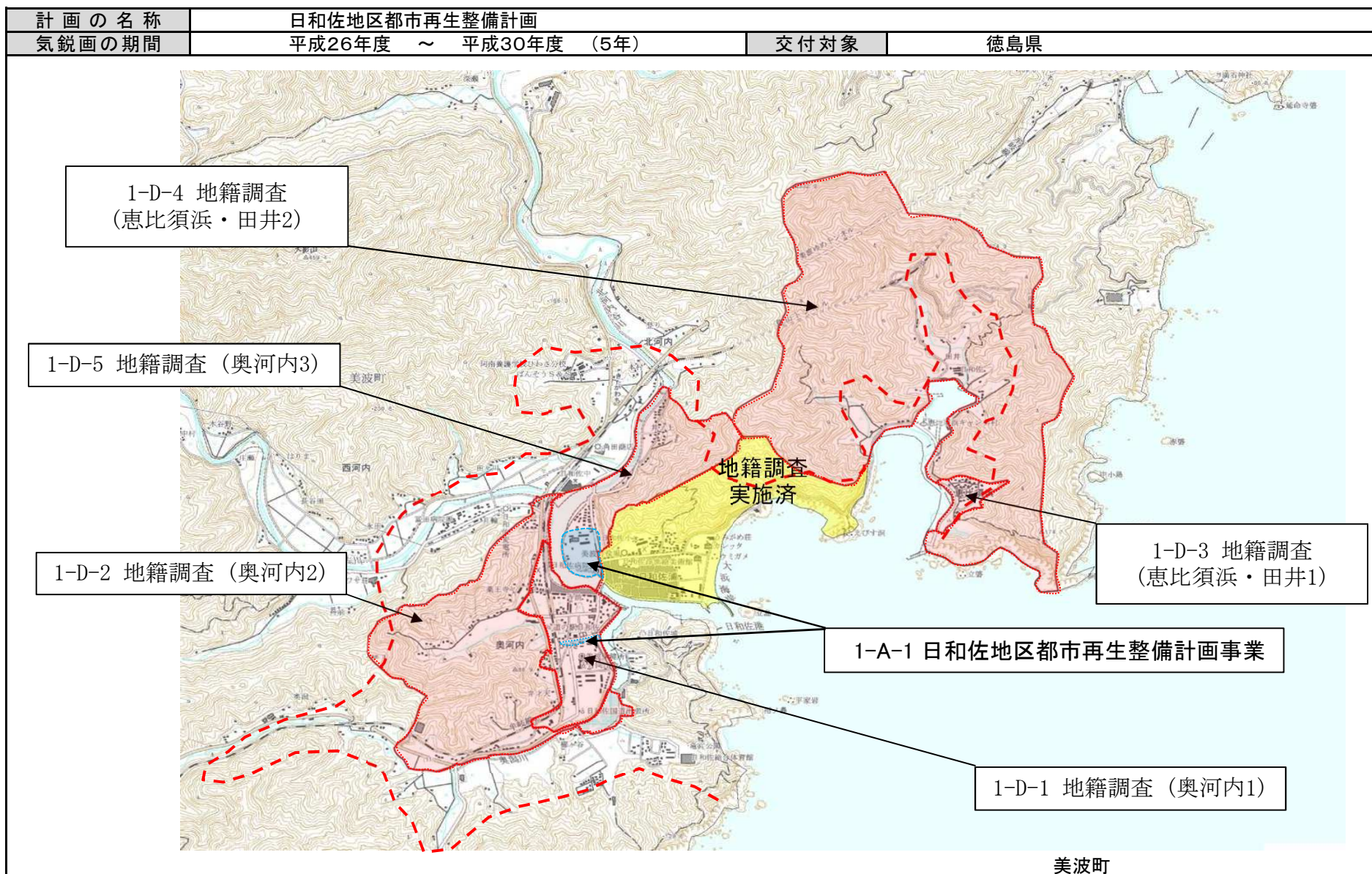
	H26	H27	H28	H29	H30
配分額 (a)	66.0	243	229.7		
計画別流用 増△減額 (b)	0	0	0		
交付額 (c=a+b)	66.0	243	229.7		
前年度からの繰越額 (d)	0.0	61.8	199.2		
支払済額 (e)	4.2	105.6	365.1		
翌年度繰越額 (f)	61.8	199.2	63.8		
うち未契約繰越額 (g)	50.0	121.4	0.0		
不用額 (h = c+d-e-f)	0.0	0.0	0.0		
未契約繰越+不用率 (h = (g+h)/(c+d))	75.8%	39.8%	0.0%		
未契約繰越+不用率が10%を超えている 場合その理由	関係機関との 協議に不測の 日数を要した ため	入札不調を生 じたので再設 計、契約等の 手続きに不測 の日数を要し たため	-		

- ※ 平成26年度以降の各年度の決算額を記載。
- ※ 平成29年度は、決算額が確定でき次第記載。

(参考図面)



(参考図面)



都市再生整備計画(第4回変更)

日和佐地区

徳島県 美波町

平成29年12月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県	徳島県	市町村名	美波町	地区名	日和佐地区	面積	816ha
------	-----	------	-----	-----	-------	----	-------

計画期間	平成 26 年度	～	平成 30 年度	交付期間	平成 26 年度	～	平成 30 年度
------	----------	---	----------	------	----------	---	----------

**目標**  
**【大目標】**美波町医療保健センター及び周辺施設を核とした3つの拠点整備により、住みなれた豊かな自然環境のもと自立を目指し、一人ひとりが輝いて生きるまちの実現のため、世代間交流や地域間交流を通じた安全・安心な環境づくりによる人から繋がるまちづくりを目指します。  
**目標①**町民誰もが、住み慣れた地域で自らの健康、家族の介護、出産・育児等に対して困ることなく、自立・安心した生活ができるための支援拠点（安心できる暮らしの確保支援拠点）  
**目標②**町民誰もが、温かな人間関係や、ともに生き、ともに支え合う心豊かな地域を築くため、人とふれあえる機会や空間の創出、健康づくりから町民主体のまちづくりを目指し、地域や町民相互の交流拠点（地域や生涯健康・生きがいづくり交流拠点）  
**目標③**南海トラフ大地震への備えから、交流・健康を通じた災害時の円滑な避難体制の構築、地域の避難場所の確保、被害状況による災害時の代替庁舎機能として利活用可能な施設整備を図る。（地域の安全を守る防災拠点）

**目標設定の根拠**

**まちづくりの経緯及び現況**  
**（まちづくりの経緯）**  
 ・本町は、平成18年3月31日に、日和佐町と由岐町が合併して誕生した総面積140.85km<sup>2</sup>のまちです。徳島県の南東部、県南海岸の中央部に位置し、北は阿南市、那賀町、西は牟岐町、海陽町に接しています。町域の大部分を山地が占め、海岸部は風光明媚なりأس式海岸で、千羽海岸やアカウミガメの産卵地である大浜海岸等を有し、室戸阿南海岸国定公園の中央部に位置しております。  
 ・本町の総人口は、昭和55年の11,866人から平成22年には7,765人と30年間で約35%の減少をみせています。特に、平成17年から平成22年の間で10%以上の人口減少が生じております。平成22年の世帯数は、3097世帯となっており、人口減少傾向より緩やかな状況ですが、昭和55年の3,550世帯から約13%の減少となっております。また、平成22年時点の65歳以上人口の比率は約41%となっており、近い将来、住民の半数が65歳以上となることが危惧されます。  
 ・さらに、本町では南海トラフの巨大地震の被害想定により、震度6強から震度7の揺れが生じ、最大で20.9mの津波が襲来、津波浸水区域においては、本町の森林区域を除く面積16.17km<sup>2</sup>に対して、浸水区域面積5.6km<sup>2</sup>と約35%とされています。また、津波影響開始時間（+20cmの津波到達時間）は10分～20分、最大波の到達時間は28～29分となっており、速やかな避難が求められています。  
 ・一方、本町は国の天然記念物であるアカウミガメの産卵地である大浜海岸をはじめ、四国霊場23番札所薬王寺や道の駅「日和佐」、ひわさうみがめトライアスロン大会等交流の核となる地域資源に恵まれており、年間100万人近い観光客が訪れております。  
 ・住民意向調査による、住民の定住意向は10・20歳代、30歳代で約5割、60歳代で約7割と定住意向は比較的高いものの、就業の場や機会、買物の便利さ、公共交通機関の利便さ等の定住に重要な要因と想定される項目への評価が低くなっております。  
 ・市民意向調査では、市への愛着度（約8割）定住意向（9割弱）はかなり高く、郷土愛が育まれている状況にある。また、「健康」「快適空間」「環境保全」に向けた取り組みが期待されている。  
 ・全国的な人口減少局面にある中で、南海トラフの巨大地震による甚大な被害想定は、本町にとって追い討ちをかける事象といっても過言ではありません。このような状況の中、人口増加をめざしたまちづくりが難しいとの前提のもと、住んでいる人の満足度を高め、安全・安心、円滑な暮らしが実現できるまちづくりが重要となっている。こうした中、地域の資源・取組みを活かしながら、持続的な発展をめざしていくために、平成24年度から平成25年度にかけて美波町総合計画の改訂、美波町都市計画マスタープランの策定し、住民参加のまちづくりを目指し、「住みたいまち・訪れたいまちとして選ばれるまち」の実現に向け、取組んでおります。  
**（まちづくりの現況）**  
 ・本町は、町村合併により日和佐病院・由岐病院と2病院を持つことになり、過疎化による人口減少、医師及びスタッフの確保による町の状況変化により病院事業の経営が悪化し、町の大きな財政負担となっていることから持続可能な運営が危惧されており、将来にわたって地域の住民が安心して、必要十分な医療サービスが受けられるよう、1病院1診療所による美波町地域包括ケア体制の構築による医療体制の再編を行っております。  
 ・東日本大震災を受け、入院機能のある病院は高台へ移転し、診療所については利便性を考慮し、保健センターとの複合施設として美波町医療保健センターとして整備を進めております。  
 ・美波町医療保健センターは、旧日和佐高校跡地の周辺施設・周辺環境を活かした地域の交流、健康づくりや町民の生きがいづくりの活動拠点として「健康づくり」が「地域・まちづくり」そのものと考え、結果、災害時要援護者対策、高齢者の生きがいづくりを通じて「防災対策」を目標としております。

**課題**  
**（人口減少・少子高齢化が進む中の課題）**  
 ・全国的な人口減少が進む中で、今後、大幅な定住人口の確保は難しい状況といえます。そのような中で、住民の定住意向を踏まえつつ、人口の流出（社会減）に歯止めをかけるため、居住者にとって住みやすいまちづくりに取組むことが必要です。特に、将来のまちの発展のためには、若者の定住を促すことが重要な視点となります。また、定住・交流人口等の流入人口の確保に向け、本町の山・海・川等の豊かな自然や個性的な伝統文化等の多様な地域資源を活かした交流機会の拡大等、町内外との連携を促すソフト的な取り組みや公共交通ネットワークの形成が重要となります。整備された社会基盤整備（町内全域への光ファイバー網等）を活かしたサテライトオフィス等の雇用の場の創出による新たな人口の受入・定住を目的とした住宅整備や若者向けの宅地開発等に環境整備に努めることが必要です。  
 ・人口減少に伴い、空き家の増加が生じています。手入れがされていない空き家の増加は、災害発生時の避難における支障となったり、まちの景観悪化につながりやすことから、空家の除去、空家の活用等も含めた適正な管理が必要となります。  
**（まちの形成から見た課題）**  
 ・人口減少や高齢化の進展等により、集落の存続が危惧される地域も見られるなか、個々の集落の歴史や文化等を尊重しながら、長期的な視点に立ったまちづくりを検討していくことが必要です。また、海岸部における津波災害、山間部における土砂災害等、自然災害に対するまちの脆弱性を認識するとともに、阿南安芸自動車道の延伸等を含めた長期的なまちのデザインを検討していく必要があります。一方、公共施設の維持管理に関する費用が増大するなかで、人口減少・少子高齢化の動向等を見据えつつ、利用頻度の少ない老朽化した公共施設については、別用途への変更もしくは廃止を検討していく必要があります。  
 ・町内の各集落において、快適な暮らしの実現が図られるよう、集落道や水道の整備、污水处理施設等の生活環境の整備が必要です。山に囲まれた地形条件にあり、交通の便が悪い集落等においては、日常生活における利便性の向上や災害時への孤立対策等として、道路網の充実が求められています（南海トラフの巨大地震等への備えに対する課題）  
 ・南海トラフの巨大地震が発生した場合、本町には、短時間で大きな津波が生じ、大規模な被害の発生が懸念されています。そのため、自助・共助・公助の連携のもとで、避難場所や避難路の確保、速やかな避難の意識づくりなど、多様な取組が求められています。本町には、延焼危険性又は避難困難性が高く、地震時等において最低限の安全性を確保することが困難である、「著しく危険な密集市街地」が4地区、24ha存在し、大規模地震の発生時における延焼の拡大、家屋倒壊による道路閉塞が生じることで避難が困難になるなど、大規模な被害が生じることで懸念され、その対策が求められています。併せて、津波浸水想定による、本町への甚大な被害が生じる可能性があるなかで、日和佐大浜海岸防潮堤等の施設の老朽化が進んでいることから、適切な施設整備・改修が求められています。  
 ・集中豪雨等による冠水や家屋浸水の恐れのある地域に対する排水対策、土砂災害を防止するための治山・治水対策を行うなど、安全・安心なまちづくりが求められています。  
**（産業の活性化に向けた課題）**  
 ・森林や農用地の保全是国土保全の観点からも重要であることを認識し、農林業振興施策に関する生産活動の維持・発展を促すとともに、森林や農用地の持つ多面的機能等を踏まえつつ、多様な主体の参画を促し、その適切な管理に努める必要があります。海岸部を中心に営まれている漁業等は、地域の基幹産業となっていることから、水産業振興施策を図りながら、水環境の保全や水産資源の保護、漁業体験等の多様な振興施策の展開を図ることが必要です。また、情報基盤整備等の特性を活かした新たな雇用の場の創出や農林水産業等の地場産業と連携した新たな産業の創出等を図っていく必要があります。本町の観光客は、正月と夏に集中しており、多様な地域資源を活用し、年間を通しての安定した入り込み客の確保が必要です。地域高規格道路である「日和佐道路」の開通等により、本町へのアクセスが向上しつつありますが、県南部における交通網は不十分な状況にあり、早期改良が求められています。  
**（価値観の多様化等への対応に向けた課題）**  
 ・アカウミガメの産卵地である大浜海岸や室戸阿南海岸国定公園等の豊かな自然環境は、地域の貴重な資源との認識のもと、その保全・活用を図るなど、本町の自然環境や景観に対する高い評価を踏まえ、より一層、地域への愛着を高めていくことが必要です。また、様々な機会を通じて町内外への「美波町の良さ」を情報発信するとともに、都市部における地域プロモーション活動等に積極的に取組むことで、交流人口の増加、さらには定住人口の増加につなげていくことが重要です。  
 ・人口減少や核家族化の進行状況を踏まえつつ、多様な子育て支援策に取り組み、少子化に歯止めをかけることが必要です。また、高齢者をはじめ、住民一人ひとりが生涯を通じて安心して暮らせるまちを実現するとともに、住民の連帯意識を高め、自助・共助のコミュニティを形成していくことが重要です。

**将来ビジョン（中長期）**  
**美波町都市計画マスタープラン（平成25年度策定中）**  
 ・本町のまちづくりの基本理念として「豊かな自然に囲まれた、夢・希望を創るまち」、全国的な人口減少、南海トラフの巨大地震による甚大な被害想定のある局面にある中で、人口増加を目指したまちづくりが難しいとの前提のもと、住んでいる人の満足度を高め、安全・安心、円滑な暮らしが実現できるまちづくり、豊かな自然環境や伝統文化継承等の取組みを活かした持続的な発展を目指していくために、「住みたいまち・訪れたいまちとして選ばれるまち」の実現に向け、住んでいる人・訪れる人にとって夢や希望を創り出すまちを目指します。

- 基本目標1: 安全・安心の実現による住みよいまちの創造
- 基本目標2: 地域の個性を活かした住みよいまちの創造
- 基本目標3: 地域内外の連携を高めた住みよい・訪れたいまちの創造
- 基本目標4: 恵まれた自然・地域資源を活かした住みよい・訪れたいまちの創造
- 基本目標5: 住民が活躍する住みよい・訪れたいまちの創造

**目標を定量化する指標**

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
美波町医療保健センター利用者数	人	美波医療保健センターの利用者数	保健・医療・福祉の地域包括ケア体制構築による相談体制の充実を図り、健康づくりから生活の向上に向け多くの町民の利用を目指す。	0	平成25年度	12,000	平成30年度
交流空間整備による交流人口拡大	人	生きがい交流空間でのスポーツ、ウォーキング等の健康づくりを目的とした利用者数	交流空間整備により活動の領域の拡大、利用団体の拡大により交流人口を現在の3倍の増加を目指す。	560	平成25年度	1,680	平成30年度
避難訓練参加者数	人	健康づくりや交流による避難訓練参加者	生きがい交流区間や多目的ホールを防災啓発活動等の各種イベント・健康増進活動に活用することにより地域の避難訓練参加者の1.5倍増を目指す。	250	平成25年度	375	平成30年度

## 都市再生整備計画の整備方針

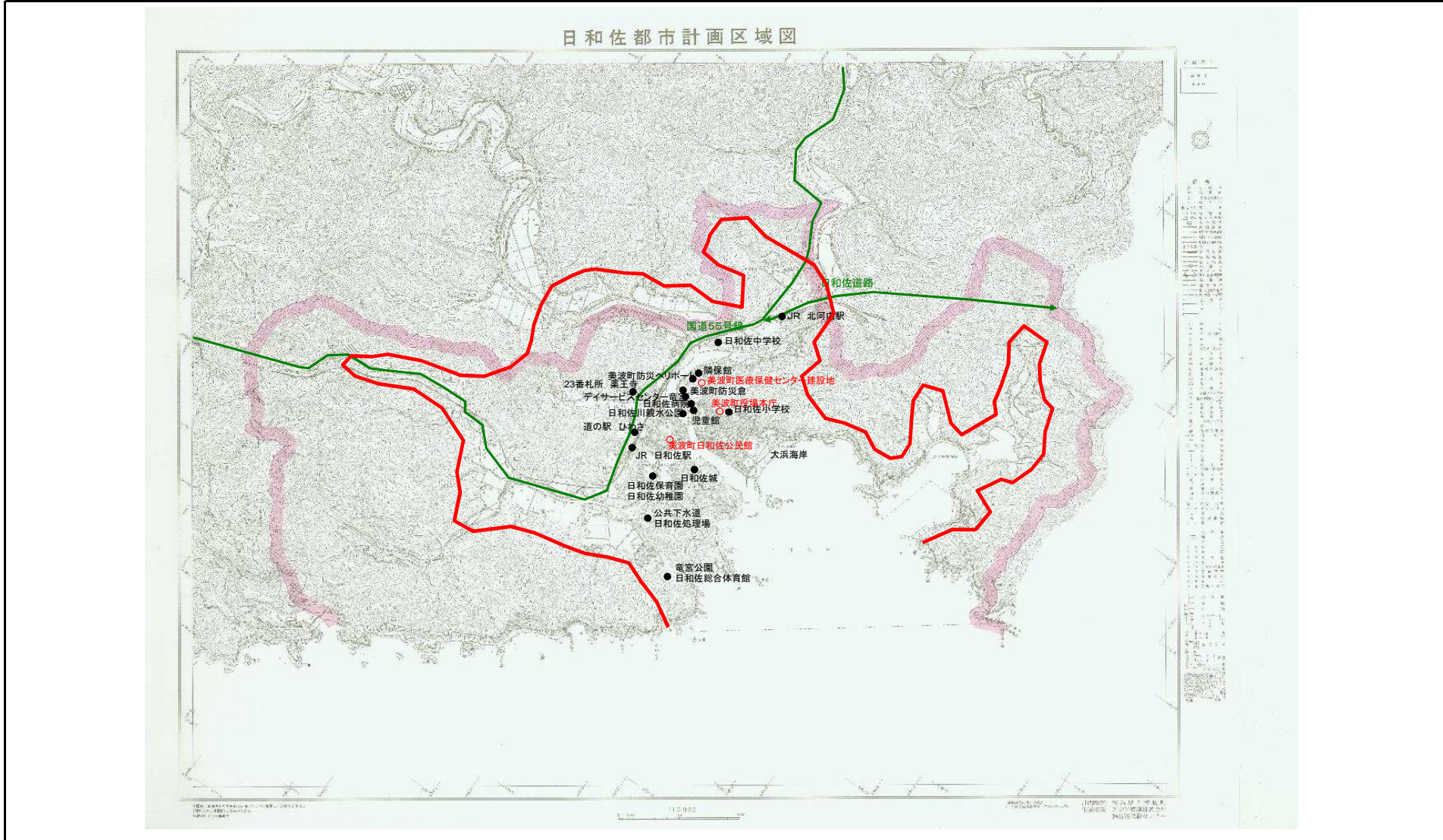
計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p><b>整備方針① 安心できる暮らしの確保支援拠点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 少子高齢化、核家族化の進行、医療制度改革、介護保険制度の実施などにより、町民の保健・医療・福祉に対する要望は複雑かつ多様化している。高齢者や障害者をはじめ町民誰もが、住み慣れた地域で自らの健康、家族の介護、出産・育児等に対して困ることなく、自立・安心した生活を送ることができるよう支援する。</li> <li>・ 町民の健康をケアするため、「美波町医療保健センター」を設置し、保健・医療・福祉のネットワークの構築を図り、町民の健康を守るために、医療体制の整備、迅速・的確な相談体制の整備に努めると共に、美波町立病院はもとより周辺地域の医療機関との連携を図る。</li> <li>・ 子育てに対する不安や、近年急増している生活習慣病を予防するには、自らの努力による食事・運動・休養等の生活習慣の見直しや環境の改善などが基本となる。このため、地域で安心して子どもを産み育てることができ、子どもが明るく健やかに成長することができるよう、出産・子育て等に関する相談や情報提供・指導・支援、高齢者等に対する健康保持・増進など予防活動の動機付けや支援、健康教育等を行うとともに、生活の質の向上に向けて町民が主体的に参加できる利用者本位の運営を図る。</li> <li>・ 地域内外からの施設利用を即すことより、利便性の向上を目的としたアクセス道路の新設、改良等町民が利用しやすい環境作りを図ると共に、民間空き建築物から公営住宅へ改修、下水道整備により周辺生活環境の向上を図る。</li> </ul>	<p>■基幹事業 町道西新町4号線(道路) 町道水源地取合線(道路) 町道日和佐病院1号線(道路) 町道日和佐病院2号線(道路)</p> <p>■基幹事業 町道西新町3・4号線下水管理施設(下水道)</p> <p>■基幹事業 町道日和佐停車場線歩道改良(高質空間形成施設)</p> <p>■基幹事業 民間空き建築物公営住宅改修事業(地域優良賃貸住宅)</p> <p>■基幹事業 美波町医療保健センターピロティ、多目的ホール部分(高次都市施設 地域交流センター)</p> <p>□提案事業 美波町医療保健センター整備事業(地域創造支援事業)</p>
<p><b>整備方針② 生涯健康・生きがいづくり交流拠点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 核家族化の進行や女性の社会進出等により、家庭や地域における介護能力・相互扶助機能の低下が進む一方、高齢者福祉に対するニーズはますます多様化・高度化している。しかし、高齢化が進むなか、健康で自己実現を望む高齢者や、自立した生活、社会活動への参加を望む障害者が増加している。、こうした高齢者等が、地域での世代を超えて素直に話し合える機会・空間づくりにより、自分の可能性を見つけ、自分らしい生活を送ることができるよう、社会参加等を通して高齢者の持つ知識・技能や伝統文化の継承、子育て世代等が抱える問題の軽減に資するよう、高齢者間はもとより高齢者と若い世代との世代間交流を推進する。</li> <li>・ 過疎化・高齢化等の課題に対して多くの地域、町民が協力して解決を図るまちづくりを進めていくためには、行政での対応には限界がある。このことより、ボランティア団体・自治組織・地域づくり組織・NPO等の参画によるまちづくり活動の活性化や地域リーダーの育成、地域コミュニティによる活動の充実を図る。</li> <li>・ 地域には子どもから高齢者、障がいのある方などさまざまな人が暮らしている。温かな人間関係や、ともに生き、ともに支え合う心豊かな地域を築いていくためにも、さまざまな人とふれあえる機会や空間の創出が求められている。整備にあたっては、周辺環境への配慮、既存病院跡地や周辺施設の活用も含め、子どもから高齢者まですべての町民が親しみ持てる空間としてスポーツ、レクリエーション活動等を通じて日々の健康づくりを楽しめる場所、地域の行事や各種イベント等において一般開放可能なオープンスペースについても十分配慮し整備を図る。また、日々の健康増進がまちづくりや防災対策に繋がることより屋外環境の活用についても十分配慮し整備を図る。</li> </ul>	<p>■基幹事業 生きがい交流空間整備事業(地域生活基盤施設)</p> <p>■基幹事業 町道日和佐停車場線歩道改良(高質空間形成施設)</p>
<p><b>整備方針③ 地域の安全を守る防災拠点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 災害時・救急等による屋外離着陸場を兼ね備えており、救急時にはドクターヘリにより他の医療機関との連携を考慮し、迅速な医療の提供により町民の安全・安心を図る。</li> <li>・ 本町において、最も人口が密集した中心市街地であり、周辺の安全な高台整備だけでは安全性の確保が難しいことより、津波浸水を考慮した安心・安全な構造とし、災害時には防災拠点として、津波避難ビルとして備蓄品・飲料水の確保、地域の避難場所を兼ね備えた施設、保健センター部分は代替庁舎として利用可能な施設整備とする。整備にあたっては、災害時に限定した空間ではなく、常時において施設の一部を町民や地域で有効に利活用可能な親しみある開放的なコミュニティ施設として整備を図る。併せて、敷地周辺においては台風や集中豪雨により満潮時が重なる排水不良による冠水が起ることがあり、排水施設の検討を行ない整備を図る。</li> </ul>	<p>■基幹事業 本町ポンプ施設改修事業(地域生活基盤施設 地域防災施設)</p> <p>■基幹事業 防災倉庫(地域生活基盤施設 地域防災施設)</p> <p>■基幹事業 津波避難階段(地域生活基盤施設 地域防災施設)</p>
<p>その他</p> <p>○観光拠点</p> <p>美波町医療保健センターを核とした生きがい交流空間を拠点としたウォキングコースとして観光資源、自然環境を活かした「健康づくり」から「まちづくり」へと整備・活動の検討を行う。</p> <p>周辺にある観光資源</p> <p>大浜海岸、四国霊場23番札所薬王寺</p> <p>周辺にある自然環境資源</p> <p>日和佐川親水公園遊歩道、城山(日和佐城)、金比羅山周辺津波避難路</p> <p>○生きがい交流空間周辺施設</p> <p>周辺にある公共施設</p> <p>児童館、日和佐川親水公園、デイサービスセンター竜宮、隣保館、本町・西町集会所、津波避難路</p> <p>○現施設利用団体</p> <p>施設を利用している団体</p> <p>日和佐スポーツ少年団(野球・サッカー)、日和佐体育協会(野球)、遷居野球団体、高齢者クラブ連合会(グラウンドゴルフ)、パークゴルフ団体、日和佐夢くらぶ(ノルディックウォーク)</p> <p>○事業終了後の継続的なまちづくり活動</p> <p>「健康づくり」から「生きがい」、「まちづくり」に繋がる様、町民との協働による活動の検討、各種団体等の育成。</p> <p>○関連事業</p> <p>(都市防災推進事業)</p> <p>南海トラフ大地震への対策として避難路、避難場所の整備を行っている。</p> <p>(美波町地域住宅整備計画)</p> <p>災害時に危険な空家や環境衛生上問題ある老朽家屋の除去を行っている。現在、本町において空家から地域交流拠点としての空家改修について補助の検討を行っている。</p> <p>(美波町医療体制整備方針による事業)</p> <p>2病院から1病院1診療所への再編整備により、美波町立病院建設を行っている、</p> <p>(地域交通検討事業)</p> <p>高齢化による交通弱者対策を兼ね、タクシー助成券制度及びデマンドバスの実証実験を行っている。今後、病院と医療保健センターとの連携について交通体系の検討を行う予定。</p> <p>(国民健康保健調整交付金事業)</p> <p>美波町医療保健センターの保健センター部分及び医療機器について関係機関と協議しながら整備を行う。</p> <p>(ひわさうみがめトライアスロン事業)</p> <p>旧日和佐町でトライアスロンを開催し、昨年第14回開催を行った。町民がボランティアスタッフとなり日本で最も人気のある「自然と選手が一体化できるコース」として人気である。</p>	





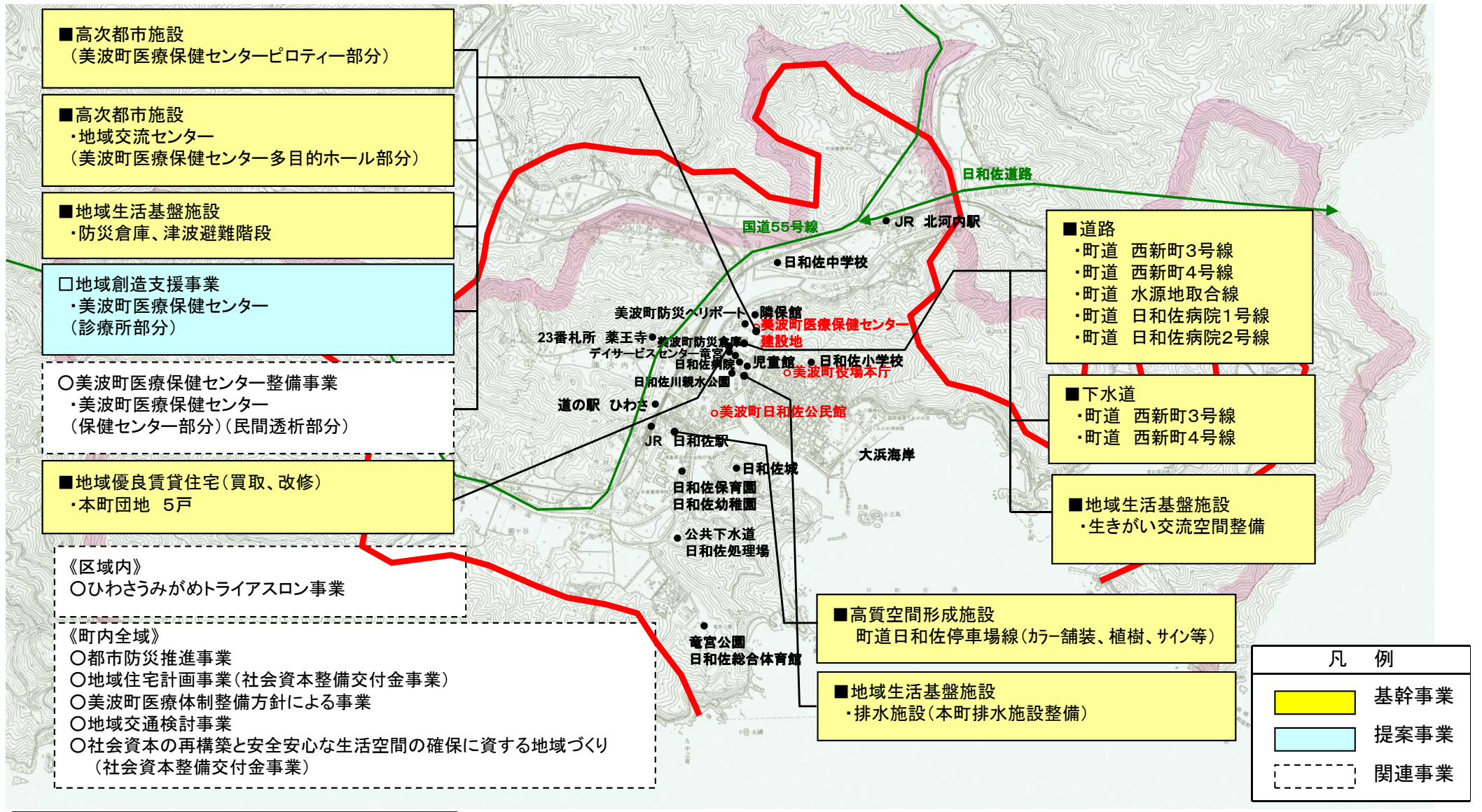
都市再生整備計画の区域

日和佐地区(徳島県美波町)	面積	816 ha	区域	日和佐都市計画区域
---------------	----	--------	----	-----------



## 日和佐地区(徳島県美波町) 整備方針概要図

目標	美波町医療保健センター及び周辺施設を核とした3つの拠点整備により、住みなれた豊かな自然環境のもと自立を目指し、一人ひとりが輝いて生きるまちの実現のため、世代間交流や地域間交流を通じた安全・安心な環境づくりによる人から繋がるまちづくりを目指します。	代表的な指標	美波町医療保健センター利用者数 (人)	0 (平成25年度) → 12,000 (平成30年度)
			交流空間整備による交流人口拡大 (人)	560 (平成25年度) → 1,680 (平成30年度)
			避難訓練参加者数 (人)	250 (平成25年度) → 375 (平成30年度)



■高次都市施設  
(美波町医療保健センターピロティー部分)

■高次都市施設  
・地域交流センター  
(美波町医療保健センター多目的ホール部分)

■地域生活基盤施設  
・防災倉庫、津波避難階段

□地域創造支援事業  
・美波町医療保健センター  
(診療所部分)

○美波町医療保健センター整備事業  
・美波町医療保健センター  
(保健センター部分)(民間透析部分)

■地域優良賃貸住宅(買取、改修)  
・本町団地 5戸

《区域内》  
○ひわさうみがめトライアスロン事業

《町内全域》  
○都市防災推進事業  
○地域住宅計画事業(社会資本整備交付金事業)  
○美波町医療体制整備方針による事業  
○地域交通検討事業  
○社会資本の再構築と安全安心な生活空間の確保に資する地域づくり  
(社会資本整備交付金事業)

■道路  
・町道 西新町3号線  
・町道 西新町4号線  
・町道 水源地取合線  
・町道 日和佐病院1号線  
・町道 日和佐病院2号線

■下水道  
・町道 西新町3号線  
・町道 西新町4号線

■地域生活基盤施設  
・生きがい交流空間整備

■高質空間形成施設  
町道日和佐停車場線(カー舗装、植樹、サイン等)

■地域生活基盤施設  
・排水施設(本町排水施設整備)

凡例	
	基幹事業
	提案事業
	関連事業